

2016年 立法委員選挙 全 73 選挙区資料  
(2016年 1月 11日)

作成：小笠原 欣幸

- ◇ 選挙区情勢を総合的に検討し，①「安定」（15ポイント以上の大差がつき当選が確実）②「リード」（ある程度の差があり当選の可能性が高い）③「激戦」（どちらにも当選の可能性のある）の3段階で評価した。「要注意」は予想外に差が縮まったり逆転したりするサプライズの可能性を指す。
- ◇ 文中の「筆者の計算では」というのは，過去の選挙データ，今回の選挙情勢，同日選挙効果，分裂投票効果などを計算した予想得票率。個人の予想であって民意調査ではない。
- ◇ 候補者の年齢は2016年1月1日時点。
- ◇ 写真はすべて筆者のカメラで撮影。



台北市第1区

台北市の北投と士林の一部からなるこの選挙区は国民党の支持基盤が固い。国民党の現職丁守中（61）は，2008年（丁60%，民進黨の高建智39%），前回2012年（丁55%，民進黨の楊烈40%）と圧倒的な差をつけ，長らく無風区とされていた。しかし，国民党の選挙情勢の低迷で差が縮小し始め，激戦区の一つとして注目を集めるようになった。

民進黨は地元の勢いのある女性市議吳思瑤（41）を立てた。吳は新潮流派に属し，当選3回。市議と

して実績があるだけでなく、党の中央常務委員も務める実力派だ。また、蔡英文の台北市の活動で司会を務めることが多く、蔡と並んだ映像が頻繁にメディアで流れる。選挙集会の司会者に注目する人はあまりいないが、テレビニュースで頻繁に顔が映るので、選挙ポスターを見てこの人だと気がつく人は多いであろう。

丁守中は、1989 年の立法委員増員選挙から出馬・当選し、過去 26 年のうち中選挙区時代に一度落選した 3 年を除き、立法委員として活動を続けてきた大ベテランで、知名度も実績もある。2014 年台北市長選挙出馬を狙ったが党内予備選挙で連勝文に敗れた。台北市の国民党の現職の中で、丁は在任期間が最も長い。このため、実際の年齢よりもっと上の印象がある。丁は 2014 年台中市長選挙で落選した胡志強と似た境遇にあり、陣営は危機感を募らせる。胡志強は実績も知名度もあるが長く



やりすぎたという印象ができて中堅世代の林佳龍に敗れた（これを「胡志強症候群」と名付けたい）。今回の立法委員選挙で選挙区での各党候補得票率は、民進党が 5 ポイント上昇、国民党は 5 ポイント下落というのが基準となる（台湾全体の選挙区の趨勢から筆者が計算した数値）。これを当てはめると吳思瑤 45.6%，丁守中 50.6%となる。立法委員の単独選挙であれば、これが投票結果となるであろう。しかし、ここに同日選挙効果（総統選挙で民進党の蔡に入れるので選挙区でも民進党の吳に入れる投票行動）が加わる。この選挙区の総統選挙の得票率予想では蔡英文は 53%に届く。それにより吳の得票ももう一段上昇する計算になる。朱立倫の得票率は大きく落ち込む可能性があり、丁は宋楚瑜に入れた人の票を確保し、その上で分裂投票（総統選挙では民進党の蔡に入れるが、選挙区は国民党の丁に入れる投票行動）を引き起こすことが必要だ。投票日直前に蔡英文が勢いを加速させる情勢になれば丁の分裂投票も及ばない。

一方、吳と丁の候補としての優劣に差が出るかどうか当然重要な要素になる。分裂投票をしてまで丁を勝たせたいと思う丁の個人的魅力に陰りができれば吳が逆転する。台北市の民進党の公認候補は吳思瑤と 2 区の姚文智の 2 人だけだ。姚文智は安定しているので、台北市の民進党は吳の支援に集中できる態勢にある。これも吳の最後の追い上げのプラス要因だ。この選挙区には他に国民党とその他の候補 3 名出ている。これら 3 候補の得票率の合計が 3%であれば、当選ラインは 48.5%となる。これも丁に不利な要素となる。どちらにも当選の可能性のある激戦。丁が負ければ今回の選挙を象徴する選挙区となるであろう。

〔参考〕YouTube「2016 立委－吳思瑤 vs. 丁守中 激戦士林北投－民視新聞」

[https://www.youtube.com/watch?v=kg\\_1YYwo5tw](https://www.youtube.com/watch?v=kg_1YYwo5tw)

## 台北市第 2 区

民進党の現職姚文智（50）が安定。姚は謝長廷派。泛緑優勢区なので国民党は候補擁立を見送り、新党の潘懷宗（54）を支持。

### 台北市第 3 区

国民党の予備選挙で現職の羅淑蕾と元職蔣孝嚴の息子の蔣萬安が争い、民調の結果蔣萬安の平均支持率が 55.4%、羅淑蕾が 44.6%で、蔣が公認候補に。泛藍優勢区なので民進黨は候補擁立を見送り第三勢力の候補を支持することにした。その第三勢力は、精神科医でテレビにもよく出ている潘建志（49）と緑社民聯合の李晏榕（35）が出馬。民進黨は民調が上であったとして潘建志の支持を決めた。潘は柯文哲選挙チームの一員で民進黨に入党しているが、民進黨内の一部には潘への批判があり、無党籍で出馬。緑社民聯合の李晏榕にも民進黨の票が流れる見込みだ。藍緑の差は縮小し蔡英文の得票率はおそらく 50%に届くが、泛緑陣営分裂により蔣萬安が安定。



### 台北市第 4 区

国民党の現職蔡正元（62）が出馬辞退。国民党の予備選挙には邱毅らも参加したが、市議員の李彦秀が民調で 32%の支持を集め公認候補に。親国民党の市議員黃珊珊（46）が前回に続いて出馬。民進黨は市議員の高嘉瑜が立候補するつもりであったが、党の選対委が出馬をやめさせ親国民党の黃珊珊の支持を決めた。国民党の李と親国民党の黃の争いだがどちらも弱みを抱える。李は大環境の不利と、地元国民党内の団結に不安を抱える。黃は市議としての知名度と実勢は評価されているが、親国民党の票だけでは当選には届かないので民進黨の票が頼りだ。しかし、緑陣営では、台聯から蕭亞譚、緑社民聯合から陳尚志も出馬しているので票が流れる。しかも総統選挙で宋楚瑜が出馬しているので、蔡英文支持者は黃に投票しにくい。しかし、民進黨が黃支持を決めたことで緑陣営の票の多くが最後は黃に集中し李をわずかに上回るのではないかと。激戦。

### 台北市第 5 区

国民党は現職の林郁方（64）が出馬、6 回目の当選を目指す。泛藍優勢区なので民進黨は候補擁立を見送り、時代力量の林昶佐（39）を支持することにした。林昶佐はフレディという名で知られるロック歌手で政治経験はない。当初は時代力量の知名度も林昶佐の知名度も低くベテランの林郁方との差は非常に大きかったが、国民党の選挙情勢の低迷で差が縮小し始め、12 月 29 日林昶佐陣営が公表した民調では両者の支持率が並んだ。筆者の計算では、この選挙区の蔡英文の得票率は 52%を超え朱立倫は 40%程度に低迷する可能性がある。そうすると林郁方は朱の得票率を 10 ポイント上回る分裂投票を達成しなければならない。選挙区サービスの実績がない林昶佐が反国民党でどれくらい浸透できるか、同日選効果で蔡英文の票をどれくらい自分の票に転化できるか、林郁方が逃げ切れるかぎりぎりの勝負となるのではないかと。激戦。

### 台北市第 6 区

国民党は現職の蔣乃辛（67）が出馬、3 回目の当選を目指す。泛藍優勢区なので民進黨は候補擁立を見送り、緑社民聯合の范雲（47）を支持することにした。緑社民聯合は民進黨と距離を置き、また、蔡英文支持もあいまいなので、蔡英文の票を全部集めることは難しい。筆者の計算では、朱立倫の得票が蔡英文を上回る。蔣乃辛安定。

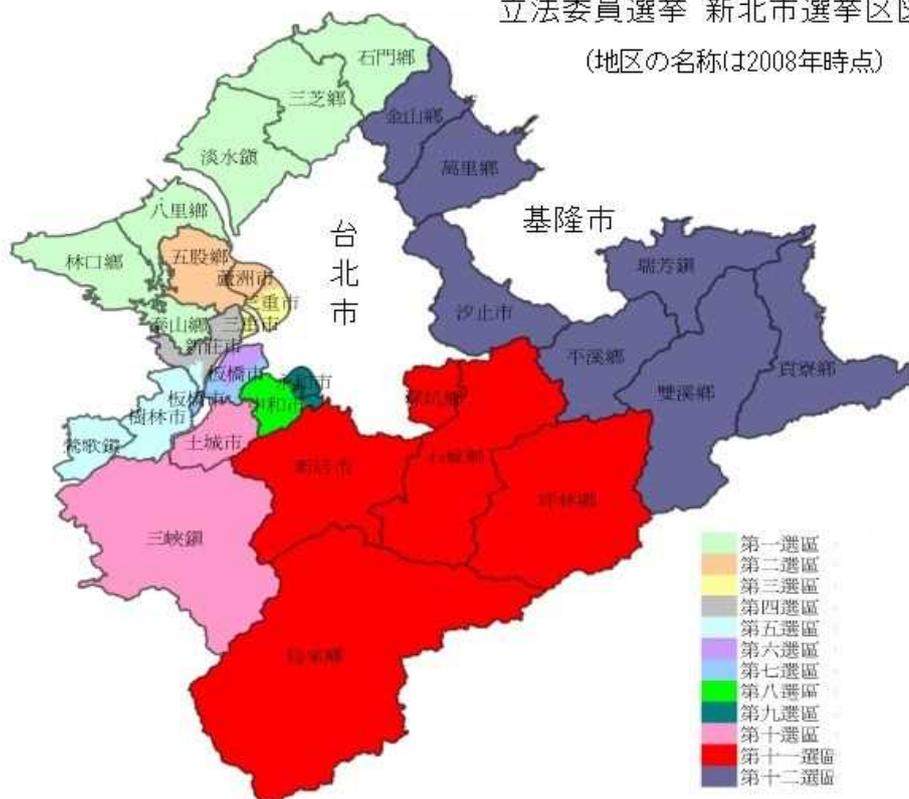
台北市第 7 区

国民党は現職の費鴻泰（61）が出馬，4 回目の当選を目指す。泛藍優勢区なので民進黨は候補擁立を見送り，第三勢力の候補を支持することにした。その第三勢力は，元国民党市議員の楊實秋（57）と緑社民聯合の呂欣潔（32）が出馬。民進黨は民調が上であったとして楊實秋の支持を決めた。楊實秋は市議員を 5 期務めたベテランだが 2014 年の選挙で落選した。その後，国民党批判を続け，2015 年 7 月，国民党は除名処分とした。楊は「藍緑超越」を掲げ柯文哲市長の支援も受けるが，民進黨内には楊に批判的な声もあり，一部の票は呂欣潔に流れる見込みだ。費鴻泰安定。

台北市第 8 区

国民党は現職の賴士葆（64）が出馬，5 回目の当選を目指す。賴士葆は立法院議員団の幹部として馬政権を支える役を担った。泛藍優勢区なので民進黨は候補擁立を見送り，第三勢力の候補を支持することにした。その第三勢力は，元新党，元国民党の市議員（現在は無党籍）の李慶元（57）と緑社民聯合の苗博雅（28）が出馬。民進黨は民調が上であったとして李慶元の支持を決めた。李慶元は市議員を 5 期務めたベテラン。新党の市議時代は陳水扁・民進黨批判の急先鋒であった。だが 2014 年のひまわり学生運動を契機に緑陣営に接近した。民進黨中央が李慶元を支持するという情報が流れると地元の党员から不満の声が上がった。李慶元本人の説明では，ひまわり学生運動の際息子と衝突したが現場に行って「学生らの洗礼を受けて」考え方が変わり「頭を完全に取替えた」そうだ。2015 年 7 月，国民党は李を除名処分とした。李慶元の選挙体制は柯文哲方式に近く，柯文哲の選挙を仕切った姚立明が選対本部主委，民進黨の台北党部主委の黃承國が後援会総会長についた。構図としてはおもしろいが，この選挙区は筆者の計算では朱立倫の得票率が蔡英文を十分上回り，かつ，反国民党の票の一部が緑社民聯合に流れるので，賴士葆安定。

立法委員選挙 新北市選挙区図  
(地区の名称は2008年時点)



## 新北市第 1 区

台湾北部の新北市は議席数が最も多く、台北市を取り囲むドーナツ状の地形をしている。これに基隆市を加えた北部ドーナツが、中部三縣市と並んで今回の立法委員選挙のゆくえを決定する。

ここは淡水とその周辺の三芝、石門および淡水河の対岸の八里、林口、泰山からなる選挙区で伝統的に国民党が強い。国民党の現職吳育昇（57）は馬英九の台北市政府チームの出身で、立法院議員団の幹部として馬政権の意向を忠実に反映する言動で知られ、罷免署名運動など反対派の活動の標的になってきた。それでも民進党の呂孫綾は選挙経験のない 27 歳の女子院生（台北市内の中国文化大学政治学系博士課程在籍）であり、時代力量の馮光遠も立候補していたので、当初は吳育昇の 4 回目の当選は堅いと思われた。ところが、国民党低迷の影響はここでも現れ、また、呂の知名度が浸透し始め、吳育昇のリード幅は徐々に縮小してきた。そして 11 月 19 日馮光遠が出馬を辞退したことで 1 対 1 の対決構造となるや選挙戦は緊迫してきた。

呂の父親呂子昌は 1982 年以来台北県議員を 7 期 28 年、新北市議員を 1 期 4 年務めた民進党の地方政治家で、淡水信用合作社という信金の理事主席を務める。娘の呂孫綾は政治家の家に生まれ育ったことで早くから政治の道を志し、「高校生の時に立法委員になりたいと思った」と筆者に語った。2010 年から民進党中央執行委員に選出され現在 3 期目（2 年任期）である。民進党中央が呂孫綾の擁立に動いた意図・背景は興味深い。当初は市議員と学者も出馬の意向を表明していたが、党中央の選対幹部は巧妙に呂にもっていった。正攻法で地元市議を立てたのでは百戦錬磨の吳育昇に勝てないと考えて、目先を変えたのであろう。呂陣営は政策も語っているが、若さ、親しみやすさを前面に出し、蔡英文人気に乗り、政策・実績論争に持ち込みたい吳を相手にしない選挙戦略をとっている。父親が蘇貞昌派なのでその人脈を使って年齢が上の支持者をつかむこともできる。



吳育昇陣営は当初は悠然と構えていたが、支持率が接近し焦りを見せるようになった。ベテランの吳育昇が若い新人の呂にテレビ討論を申し入れた。普通は逆で、ありえない行動だ。呂が応じないので、吳陣営はテレビ討論の「挑戦状」を呂の FB に張り付けたところ、呂に削除された。まさに「のれんに腕押し」という状況になっている。吳育昇の今回の選挙広告ビデオの第二編は「多くの人が私のことを嫌っている」という言葉から始まる。これは、危機感を深めた陣営が、吳育昇の人間性をさらけ出すことによって巻き返しを図る作戦のようである。

吳育昇陣営は当初は悠然と構えていたが、支持率が接近し焦りを見せるようになった。ベテランの吳育昇が若い新人の呂にテレビ討論を申し入れた。普通は逆で、ありえない行動だ。呂が応じないので、吳陣営はテレビ討論の「挑戦状」を呂の FB に張り付けたところ、呂に削除された。まさに「のれんに腕押し」という状況になっている。吳育昇の今回の選挙広告ビデオの第二編は「多くの人が私のことを嫌っている」という言葉から始まる。これは、危機感を深めた陣営が、吳育昇の人間性をさらけ出すことによって巻き返しを図る作戦のようである。

総統選挙の得票率は、筆者の計算では蔡英文 53% で朱立倫を大きく上回る見込みだ。宋楚瑜に入れた人がすべて選挙区で吳に入れるわけではない。総統選挙は蔡に入れるが選挙区は国民党の吳にという分裂投票と、総統選挙は蔡に入れるから選挙区も呂にという同日選挙効果とのせめぎ合いだ。これは投票日当日の雰囲気によって決まるのであろう。どちらが当選してもおかしくない激戦。

【参考】YouTube【你討厭吳育昇？】新北市第一選區立法委員候選人 ①吳育昇

<https://www.youtube.com/watch?v=D3k2AXx-7qQ>

### 新北市第 2 区

蘆洲，五股は新北市の中で民進党支持が最も強い。民進党の現職林淑芬（42）が圧倒的な強さを誇る。林淑芬は当選 3 回，新潮流派。日本の福島県など原発被災地周辺 5 県の食品輸入規制の解除に強硬に反対している。国民党は候補がなかなか決まらず台北県議員を 1 期，新北市議員を 1 期務めた陳明義（48）を擁立した。陳は昨年の市議員選挙で落選している。林が記録的大差（おそらく 28 ポイント差）をつけて圧勝するであろう。



### 新北市第 3 区

民進党は現職の高志鵬（52）が再選を目指す。高は元陳水扁派，最近は游派。国民党は候補がなかなか決まらず，前回出馬して敗れた元三重市長の李乾龍（66）を擁立した。親民党から張碩文（44）も出馬。張は雲林県で立法委員を務めたので，三重に多い雲林県出身者の票を狙う。高志鵬安定。

### 新北市第 4 区

国民党は現職の李鴻鈞（56）が不出馬を表明。李はその後，親民党の比例区名簿 1 位に載った。国民党は候補が見つからずあまり実績のない陳茂嘉（43）を公認した。民進党は比例区の吳秉叡（49）が選挙区に戻り出馬。吳は蘇貞昌派。第三勢力の胡世和も出馬の意向であったが，民調による一本化で吳秉叡に決まった。緑社民聯合の賈伯楷（29）も出馬している。吳秉叡安定。



### 新北市第 5 区

3 選を目指す国民党の現職黄志雄（39）に民進党の新人蘇巧慧（39）が挑む。黄はテコンドーの元選手で，アテネオリンピックで銀メダルを獲得した台湾スポーツ界の「英雄」。スポーツ選手から国会議員になった政治家について連想する気合重視の人というイメージと異なり，緻密な選挙区サービスを行なっている。国民党若手中堅の好人材。



蘇巧慧は、蘇貞昌前民進党主席の娘。選挙に出たことはなく「政二代」という批判もあったが、政治家一家に育ったため自然に素質を身につけたのであろう、熟練しているという印象を受ける。くしくも二人とも 39 歳、同年齢の戦いである。黄は 2008 年と 2012 年、元樹林市長で台聯の立法委員も務めた老練政治家廖本煙に「新しさ」で打ち勝ったが、早くも追われる立場になった。選挙情勢は五分五分であったが、蘇の知名度が徐々に浸透し、民進党有利の大環境の利が効いてきた。最後は同日選挙効果で蘇が抜け出すであろう。

### 新北市第 6 区

国民党は現職の林鴻池（60）が不出馬を宣言したので、市議員の林國春（47）を公認候補とした。林鴻池は国民党立法院議員団の幹部として馬政権を支える役を担った。元板橋市長で強力な後援会組織を擁する林の不出馬で国民党は不利な状態に陥った。林國春は警察出身で、治安・安心をアピールする。民進党は市議員の張宏陸（43）を公認。張は蘇貞昌派。

筆者の計算では板橋西のこの選挙区での蔡英文の支持率は 57% に達し朱立倫を圧倒する見込みだ。林國春の選挙ポスター・看板には国民党のシンボルマークも朱立倫のツーショット写真もない。徹底して候補個人をアピールし「分裂投票」を促す選挙戦略だ。この選挙区には親民党、国民党の候補も出馬し、他に小政党・無党籍の候補が 5 人出ている。当選ラインは下がるがどちらかというとな林國春が苦しい構図だ。どちらも中堅世代の実力派市議員で甲乙つけがたく、林國春も個人票を固めているが、大環境が民進党に有利なので、張宏陸の同日選効果が林の分裂投票を上回るであろう。



### 新北市第 7 区



国民党の現職江惠貞（52）に民進党の羅致政（51）が挑む。羅致政は前回 2012 年にも出馬し、江に敗れている。羅は早くからの蔡英文派で、民進党新北市党部主委を務め、東呉大学の政治学者としてテレビの討論番組に頻繁に出演しているので知名度も高い。江は前回初当選であるが、県議員、国民大会代表、板橋市長を経ているので個人の後援会組織を擁している。党内では王金平派。危機感を前面に出した選挙戦を展開する。総統候補が洪秀柱から朱立倫に換わったことで多少はプラスになったが、民進党有利の大環境は変わらない。同日選効果で羅が抜け出す。

### 新北市第 8 区

国民党は現職の張慶忠（64）が 4 選を目指す。張は、監察院の財産申告によれば 12 億元相当の土地・貯金・有価証券・債権を有している。中台サービス貿易協定の立法院委員会審議打ち切りの役を担っ

たことで、ひまわり学生運動の批判の標的になった。また、11 月には息子の不祥事が台湾メディアで大きく報じられた。民進黨は前回と同じく市議の江永昌（46）を擁立。江永昌は趙永清元立法委員の助手を務めた。中和地区は泛藍優勢区であるが、深藍支持者の失望・反感があり、そして外来人口も増えていて、張が以前ほど安定と言えなくなっている。驚くべき大逆転がないとは言えない。要注意。

### 新北市第 9 区

国民党の現職林德福（62）が 5 回目の当選を目指す。比例区 2 期の満期を迎えた洪秀柱はこの選挙区から出馬したかったのだが朱立倫は手を貸さなかった。このことが洪秀柱の総統選挙予備選出馬につながった。泛藍優勢区なので民進黨は候補擁立を見送り、第三勢力の無党籍候補李幸長を支持することにした。李は「殻のない蝸牛（家を持たない人）」運動で知られる。「居住機会の公平」を掲げ馬政権下での住宅価格高騰を批判する民進黨の理念に合致するが、この選挙区では朱立倫の得票率が 50% に達する見込みで、林德福安定。

### 新北市第 10 区

国民党の現職盧嘉辰（62）に民進黨の市議員吳琪銘（52）が挑む。盧嘉辰は土城市長を 2 期務めてから立法委員に転身し 3 選を目指す。党内では党金平派の重要人物で、頻繁に王の発言人の役を演じた。土城は中国ビジネスで有名な鴻海のお膝元にあたる。盧嘉辰は鴻海の郭台銘と親しい。盧は演説会で中台関係の改善と「92 年コンセンサス」を馬政権の実績として訴える。盧嘉辰の選挙ポスター・看板はほとんど本人 1 人の写真を使用し、これまでの地方建設、選挙区サービスの実績を強調し分裂投票を引き出す選挙戦略。対する吳琪銘は他の民進黨候補と同様に蔡英文を前面に出す選挙戦略だ。吳は県議から数えて 3 期目の実力派市議、游派。昨年の市議選は土城を含む選挙区でトップ当選。吳もこまめな選挙区サービスで台頭してきたので、その点では蘆とタイプが似ていて、そこでの競い合いになれば一日の長がある蘆が有利だ。しかし、大票田の土城は旧来型の地元選挙民に台北への通勤者など都市型選挙民が混じった地区で同日選効果が出やすい。筆者の計算ではこの選挙区で蔡英文が 55% 程度取りそうで、そうなると蘆の分裂投票も及ばない。激戦区であるが吳が抜け出すであろう。



### 新北市第 11 区

国民党の現職羅明才（48）に民進黨の市議員陳永福（57）が挑む。羅明才は元立法委員の羅福助の息子で当選 5 回。ひまわり学生運動に参加した曾柏瑜（24）が緑社民聯合から出馬、今回の選挙で最年少の候補。黒金政治打倒を訴え、若者の政治参加を促す。羅明才安定。

### 新北市第 12 区

国民党の現職李慶華（67）に時代力量の新人黄国昌（42）が挑む。李慶華は外省人第一世代で、父親李煥は党国体制で国民党秘書長や行政院長の要職を歴任した。李慶華は、国民党→新党→親民党→国民党と渡り歩き、深藍勢力の象徴的人物と言える。黄国昌は汐止の出身で、ひまわり学生運動が契機となって登場した新政党「時代力量」の党主席を務める。この選挙区は、人口の最も多い汐止は都市型であるが国民党支持が強く、他の郷鎮も従来型の国民党の固い地盤で、波乱は起きにくい選挙区である。汐止は、旧来の地元民に台北通勤者の新住民が加わり浮動票も増えたが、やはり国民党優勢で、李慶華の再選は固いと見られていた。しかし、黄国昌という新たな人物が参戦してきたことで注目も高まり、選挙情勢にも変化が見られる。黄は反中国の運動家（中国系メディア独占反対運動で頭角を現した）という経歴を



出さず、この選挙区で立法委員に当選するための選挙に徹している。出馬は 7 月と出遅れたが、精力的な選挙活動で追い上げつつある。終盤まで李慶華がわずかにリードし、選挙区の構造からして選挙区サービスの実績がない黄国昌の当選は難しいが、波乱が起きないとは言えない。

李慶華は、昨年の台中市長選挙で落選した胡志強と似たような個人的社会的特性を持っている。胡志強については民進黨支持者はほぼ全面否定だが、国民党支持者そして中間派選挙民は実績を評価している。しかし長く続けてまた再選を狙ったことで「あき」を誘発した。それは、若くエネルギーで弁がたつ林佳龍という挑戦者が出てきたことで拡散したのである。李慶華もこの「胡志強症候群」に見舞われる可能性は否定できない。選挙民の「もういい」「あきた」という感情は対処が難しく、それが広がる社会的ムードは存在している。要注意。

### 基隆市選挙区

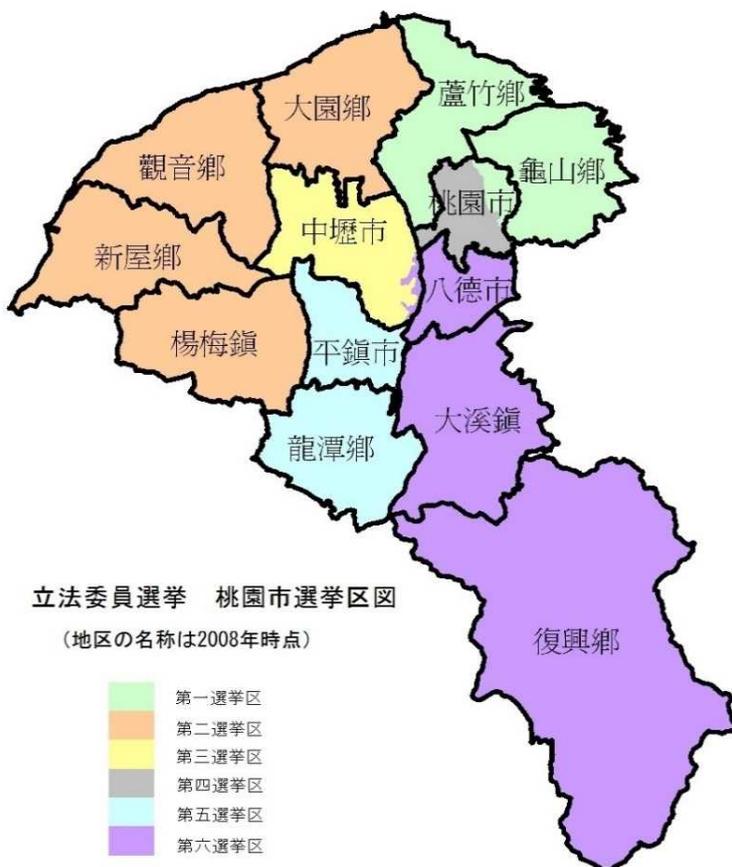
長らく国民党の強固な地盤であり前回 2012 年の蔡英文の得票率は 36.8%にすぎなかったが、2014 年市長選挙で民進黨の林右昌（44）が当選し、変化を印象づけた。その市長選挙は、国民党が中央から「落下傘候補」の謝立功を立て、それに対し地元の市議員から議長になった黄景泰が無所属で出馬、林右昌との 3 人の争いとなったが、林が票を伸ばし 53%の得票率を得た。これは基隆市の選挙で民進黨候補があげた最高の得票率である。国民党の票が割れただけでなく、民進黨が票を伸ばしたというのが 2014 年市長選挙である。

今回、国民党の現職謝國樑（40）が出馬を辞退した。国民党はここで混乱し、またしても中央から「落下傘候補」の郝龍斌（63）



を立てた。これに対し、党所属の市議員楊石城（53）が不満を抱き国民党を離党，民国党に入党し出馬した。前回市議員選挙での楊石城の得票は 8120 票（ただし選挙区内では 32%の得票率でトップ当選），大きな影響があるとは言えないが，国民党の票の一部が食われる。親民党の劉文雄（61）も出馬した。泛藍は再び票が割れる。党副主席である郝龍斌が自ら出陣したので国民党としては落とすわけにはいかないが，苦戦は免れない。

挑戦する立場の民進党の蔡適應（42）は，当選 3 回の市議員，民進党基隆市党部主委を兼ねている。元来無派閥であるが蔡英文を支える「英派」である。蔡適應は元立委の王拓の助理からのし上がってきた人物で民進党キャリアパスを象徴する 1 人である。タイプとしては林右昌市長に似ている。基隆市はこの 20 年間たいした発展をしていない。蔡適應はそこを突き，一部支持者の国民党離れを誘発している。郝龍斌が勝つと見ている人が多いが，昨年の市長選挙とよく似た構図が出現し，蔡適應が激戦を勝ち抜きそうだ。



### 桃園市第 1 区

国民党の現職陳根徳（59）に民進党の鄭運鵬（42）が挑む。陳根徳は王金平派，県議会議長を歴任し当選 5 回のベテラン，選挙区サービス重視で地方建設に力を発揮してきた実力者。鄭運鵬は蘇貞昌派の元立法委員で，現在民進党の發言人を務める。泛藍優勢区であったが情勢が変化している。筆者の計算では蔡英文の得票率は 52%で，圧倒的な同日選挙効果が発生するほどではない。しかし，選挙区の趨勢の民進党+5，国民党-5 を当てはめると陳根徳と鄭運鵬はまったく並ぶ。陳根徳の分裂投票がわずかに上回という読みが多いが，最後の数日の動向と当日の投票率によって動く。激戦。

**桃園市第 2 区**

国民党の現職廖正井（70）に民進黨の市議員陳頼素美（51）が挑む。廖正井は吳伯雄派で王金平と関係がよかったが今回は朱立倫支持。陳頼素美は県議から数えて 4 期目の市議員。民進黨の予備選挙で元立法委員の郭榮宗、彭添富、彭紹瑾らを民調で上回って公認を得た。前回 2012 年は廖正井が郭榮宗を僅差で破ったが、ここは桃園市の 6 選挙区の中で緑陣営の支持が最も高く、国民党の支持の低迷、そして同日選効果も期待できるので陳頼素美がリード。

**桃園市第 3 区**

国民党の現職陳學聖（58）に民進黨の徐景文（53）が挑む。陳學聖は台北市萬華出身で台北市選出の国民党若手立法委員としてならしたが 2004 年に落選、その後苦労して中壢にたどり着き根を下ろした。徐景文は県議を 3 期務めたが 2014 年の市議員選挙で落選した。国民党低迷の影響は当然ここにも現れるが依然として泛藍優勢区で、朱立倫の得票率は筆者の計算で 53%。加えて、陳學聖は国民党桃園市党部主委を兼任、地元での活動を積極的に行ない、各種社会団体を長年地道に支援してきた実績がある。陳學聖安定。

**桃園市第 4 区**

国民党の現職楊麗環（58）に民進黨の鄭寶清（60）が挑む。楊麗環は当選 4 回、選挙区サービスをこまめに行ない地元の知名度も高い。鄭寶清は陳水扁派の元立法委員で 1990 年代に政界で活躍し、2000 年代はビジネス界に移った。2014 年の桃園市長選挙で鄭文燦の当選に貢献した。この選挙区は民進黨の支持が第 2 区、第 1 区に次いで高いが、それでも蔡英文の得票率は 50%程度であろう。楊麗環の分裂投票が鄭寶清蔡英文の同日選効果を上回るであろう。楊麗環安定。

**桃園市第 5 区**

国民党の現職呂玉玲（54）に民進黨の市議員張肇良（51）が挑む。泛藍優勢区であるが、呂の支持基盤は一枚岩ではない。呂の夫陳萬得は平鎮市長を務め桃園の建設業界に影響力を持つが、刑事事件の裁判を抱え前回 2012 年選挙をあきらめ、代わりに出馬したのが呂であった。この間に党内でごたごたがあった。その後陳萬得は 2014 年桃園市議員選挙に出馬したが落選、2015 年 8 月懲役 10 カ月の有罪が確定し 12 月収監された。呂玉玲は積極的な選挙区サービスを展開しているが、陳呂夫婦の影響力の減退をどの程度補えるか未知数。

張肇良は県議から数えて 3 期目、市議員団の総召（団長）を務める。前回 2012 年に出馬を目指したが民進黨の公認争いで彭添富に敗れ、その不満で夫人の吳平娥が党紀違反出馬し緑陣営の票が割れた。今回は張肇良である程度まとまったようであるが足元には問題もある。張肇良は市議選で龍潭区から出馬しトップ当選しているが、人口の多い平鎮は呂玉玲陣営の地盤である。平鎮の深藍支持者は、馬英九朱立倫への失望、比例区名簿、副総統候補の軍人住宅投資への不満があるとされ投票意欲の低下は免れない。筆者の計算では総統選挙では蔡と朱の票が接近し、呂の優勢が失われる。国民党が候補を立てていることも呂の得票に若干の影響を与える。呂がリードしているが両者の得票はかなり接近する可能性がある。要注意。

### 桃園市第6区

国民党の現職孫大千（46）が5回目の当選を目指す。泛藍優勢区なので民進黨は候補擁立を見送り、無党籍の市議員趙正宇（49）を支持することにした。趙正宇は国民党籍県議員を3期務めた。2014年桃園市昇格の市議員選挙出馬を目指したが、国民党内の予備選挙で敗れ公認を得られなかった。趙正宇は無党籍で市議選に出馬し、八徳区でトップ当選した。趙正宇は藍緑の超越を掲げ、民進黨も第三勢力の候補とみなし支持を決めた。孫大千安定。

### 新竹県選挙区

非常に複雑な選挙区である。前回国民党籍で当選した徐欣瑩（43）は離党し国民党を結成、その党主席に就任し、引き続き同選挙区で再選の選挙活動を続けた。国民党は県議員の林為洲（54）を公認した。林は元民進黨で県議員、立法委員を務めた。2009年無党籍で県議員に当選後国民党に入党した。泛藍優勢区なので民進黨は候補擁立を見送り、無党籍で出馬する鄭永金（66）の支持を決めた。鄭は元国民党で県議会議長、立法委員、県長を務めた。現県長の邱鏡淳派と長年の確執があり、



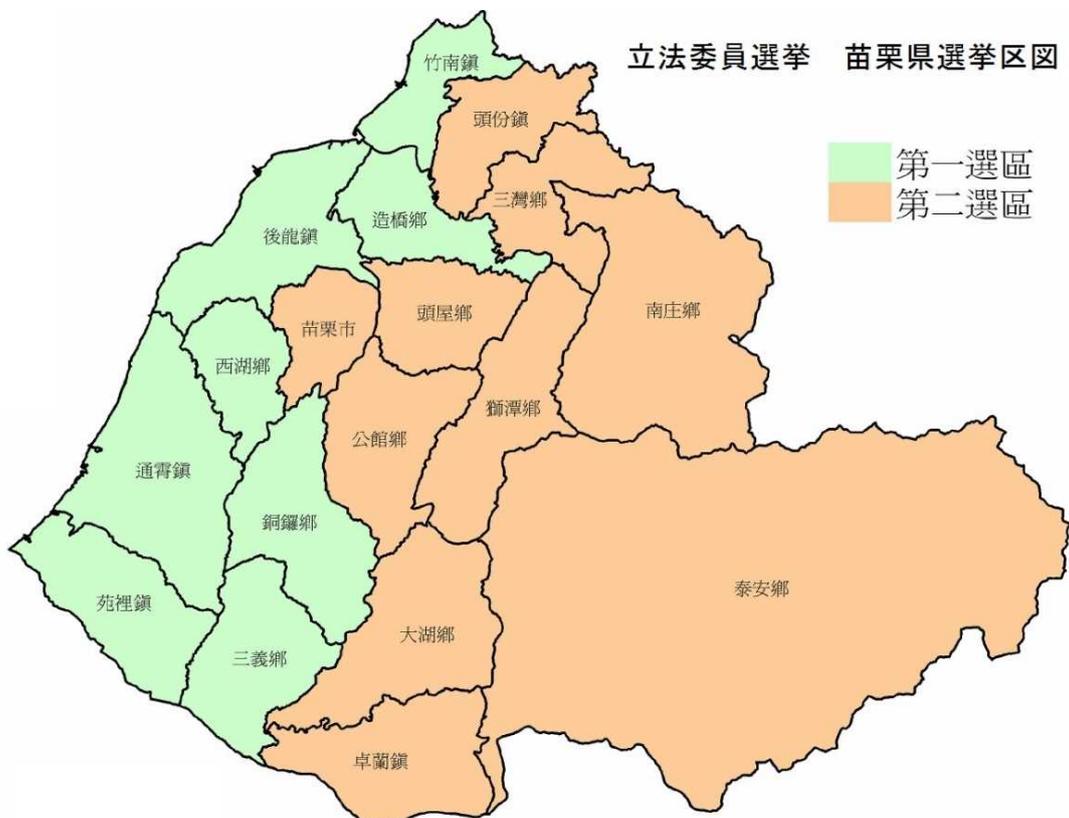
2014年の県長選挙で再選を目指す邱鏡淳に対し、鄭が無党籍で出馬し落選したが、候補擁立を見送った民進黨が鄭を非公式に支持した。この時から双方の協力関係が形成された。

鄭は2015年9月の民進黨党大会に「貴賓」として出席、他の民進黨候補と並んで紹介された。蔡英文は頻繁に同県を訪れ毎回鄭永金と合同の選挙活動を行い、県の蔡英文選対も鄭派がサポートしている。双方の内部には異論もあり、鄭派すべてが蔡英文支持ではないが、双方の協力はうまくいっている。民進黨が弱かった客家地区で大きな橋頭堡を築いたことは間違いない。前回2012年蔡英文の得票率はわずか31%であったが、今回は45%くらいに飛躍するであろう。この伸びの一部が鄭永金効果である（おそらく6、7ポイント）。一方、国民党の徐欣瑩が11月に宋楚瑜の副総統候補となり、立法委員選挙出馬を取りやめた。代わりに県議員の邱靖雅（43）が国民党から出馬した。これで国民党の攪乱要因が弱まり、林為洲が恩恵を受ける。しかし、緑票+鄭派票で鄭永金リード。

### 新竹市選挙区

新竹市は泛藍優勢区であったが2014年選挙では民進黨の林智堅が市長に当選した。国民党は現職の呂學樟（63）が再選を目指したが、党内予備選の第一段階で市議員の鄭正鈴（46）に5%以上の差をつけることができず予備選の第二段階に入った。呂は不出馬を宣言し、第二段階の民調で鄭正鈴が公認候補となった。鄭は市議員4期目。民進黨は比例区2期を務めた柯建銘が選挙区に戻り出馬。時代力量からは社会運動支援弁護士として知られる邱顯智（39）も出馬し、緑陣営の票が割れる事態になった。柯建銘には「古い政治家」というイメージがあり、国民党若手市議の鄭正鈴と国会改革を唱える邱顯智の挟撃に遭い苦戦した。柯建銘の支持率は当初低かったが、市長、議長・副議長らの強力な

支援を得、さらに夏以降蔡英文が頻繁にテコ入れに入ったことで激戦を抜け出した。民進党が立法院で過半数を制する勢いになり、次期立法院長と論じられていることも地元の経済界や一部中間派の支持を得るうえでプラス材料。親民党の歐崇敬は影響せず。柯建銘が激戦を抜け出しリード。



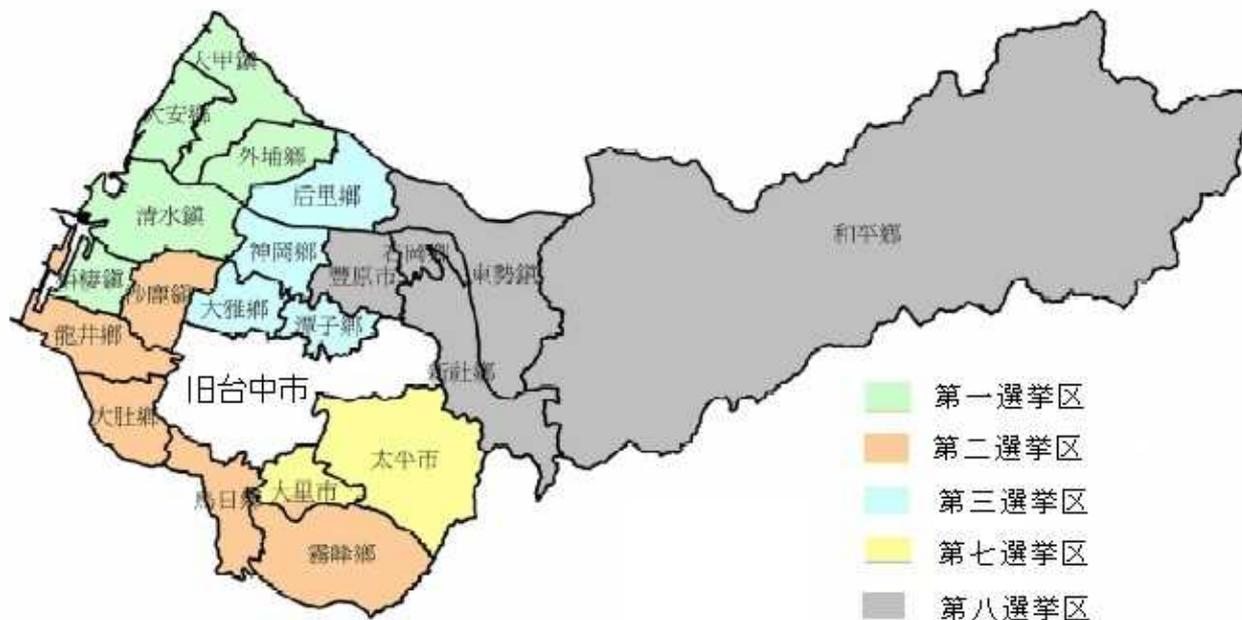
**苗栗県第 1 区**

泛藍優勢区だが変化も現れている。苗栗県政は国民党が握ってきたが、財政が悪化し昨年県職員の給料支給に遅延が生じた。大環境の不利に加えローカルイシューでも国民党に逆風が吹く。苗栗県は「客家大県」と称されるが、海側に位置する 1 区は閩南系の人口も多い。再選を目指す国民党の現職陳超明（64）に民進党の元職杜文卿（61）と国民党の元職康世儒（51）が挑戦する。陳超明は台湾省議員も務めたベテラン政治家で前県長の劉政鴻派。杜文卿は立法委員 3 期務め現在は苑裡鎮長。ベテランで一定の支持基盤もあるが県内の選挙の「常連」で新鮮味には欠ける。ただし、陳超明もベテランなので相殺される。康世儒は元竹南鎮長、2009 年補欠選挙で当選挙区立法委員に当選した。康世儒は 2014 年県長選挙にも無党籍で出馬、県全体の得票率 19%で敗れた。今回の選挙の構図は、国民党、民進党、そして康世儒の 3 者が争った県長選挙と同じである。この県長選挙の結果を当選挙区で計算すると、徐耀昌 38.7%、吳宜臻 31.3%、康世儒 25.5%となり、康が当選挙区では一定の集票力を持っていることがわかる。

総統選挙についての筆者の計算では、苗栗県での蔡英文の得票率は前回より 10.8 ポイント上昇し 44%。朱立倫より低いですが、この選挙区に限ると蔡の得票率は朱を上回り 50%に達する見込みだ。康の得票率を県長選と同じ 26%程度と想定し、国民党の逆風、民進党の同日選効果を考慮すると、杜文卿が陳超明をわずかに上回る可能性がある。

苗栗県第 2 区
<p>国民党の現職徐志榮（60）に民進黨の吳宜臻（45）が挑む。吳は比例区の現職。前回 2012 年に当選した国民党の徐耀昌は 14 年県長選挙に出馬し当選した。その補欠選挙に今回と同じく徐志榮と吳宜臻が出馬し、徐 58.2%，吳 40.7%で、徐が大差で当選した。1 区と同様 2 区でも国民党に逆風が吹いているが、泛藍の圧倒的優勢区なので吳は差を少し縮めるのがやっとであろう。</p>

立法委員選挙 台中市選挙区図 (旧台中県)



台中市第 1 区
<p>旧台中県の沿海部。嘉義，雲林，彰化とつながる沿海地域の地方派閥政治文化の典型的選挙区と言われてきた。以前は泛藍優勢区であったがすでに泛緑優勢区に転じた。民進黨の現職蔡其昌（46）に国民党の顏秋月（50）が挑む。顏秋月は元清水鎮長。蔡其昌は新潮流派で台中の若手議員らの兄貴分的存在。蔡其昌安定。</p>
台中市第 2 区
<p>1 区と同様泛藍優勢区であったがここも泛緑優勢区に転じようとしている。国民党の現職顏寬恒（38）に民進黨の市議員陳世凱（38）が挑む。前回 2012 年は国民党の支持を得た無党団結聯盟の顏清標が当選した。顏清標は旧台中県黒派の実力者。だが、顏は台中県議会議長をしていた時の汚職の有罪が確定し失職。その補欠選挙で息子の顏寬恒が当選した。顏寬恒は初めての選挙であったが長年父親の秘書として選挙区を回っていた。その 2013 年補欠選挙で対戦した相手が今回と同じ陳世凱である。陳世凱は新竹市の出身だが台中の東海大学政治学科で学び、蔡其昌の事務所主任を経て市議員に当選、現在 2 期目、新潮流派。共に 38 歳、好青年同士の 2 回目の対決である。筆者の計算では、この選挙区で蔡英文の得票率は 55%に達する見込みである。陳世凱は同日選効果が最大になるよう蔡英文との一体キャンペーンを展開し、顏寬恒は選挙区サービスの実績を強調し総統選では蔡に入れても選</p>

挙区では自分へという分裂投票を促す。他に、国民党の比例区立法委員であった紀國棟（55）も無党籍で出馬している。紀は国民党批判を続けたため除名され、比例区立法委員の資格を失った。紀の出馬は顔寛恒の得票に若干の影響を及ぼす。激戦であるが、陳世凱が抜け出しやすい状況だ。



### 台中市第 3 区

国民党の現職楊瓊瓔（51）に時代力量の洪慈庸（33）が挑む。楊瓊瓔は当選 5 回のベテラン。地方政治家の出身でこまめな選挙区サービスを続けている。洪慈庸はこの選挙区の出身であるが、政治の素人で、かつ、選挙区では何の活動経験もない。確かに全国的知名度があるが、選挙区を観察していた人によれば、当初は、洪を知らない人が多く、洪の弟の事件（2012 年に軍隊内でしごきが原因で青年兵士が死亡した事件）を説明しようやく「あの時の被害者の姉」と結びつく人が多かったそうだ。洪慈庸は親しみやすい人物で知名度も徐々に上がってきた。民進黨は候補を立てずに洪を支援。林佳龍市長が洪の応援に力を入れている。国民党側は洪を完全に民進黨の候補と見て応戦している。

「選挙区経営をやっていない人物は知名度が高くても立法委員に当選できない」というのが台湾政治の常識である。ここでもカギは同日選効果と分裂投票のせめぎ合いである。筆者の計算では蔡英文の得票率は 57% を超える見込みだ。朱立倫の票はかなり落ち込むので、楊瓊瓔は非常に大きな規模の分裂投票が必要となる。専門家の多くは楊瓊瓔が勝つ、つまり「台湾政治の常識」が勝つと見ている。緑の支持者が喜んで投票に行き、藍の支持者は投票にも行きたくないという状況になれば洪の当選の可能性が出てくる。激戦。



### 台中市第 7 区

民進黨の現職何欣純（43）に国民党の市議員頼義鎧（38）が挑む。何欣純は台中県議・市議を 3 期務め前回選挙で当選。緑陣営優勢区なので何欣純安定。

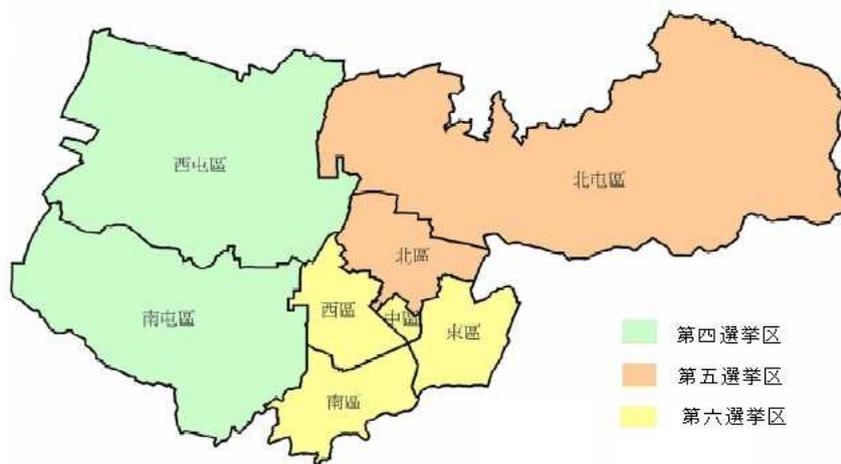
### 台中市第 8 区

豊原という地方都市、東勢という客家地区、新社という山村、和平という原住民地区を抱える広くて難しい選挙区。国民党の現職江啟臣（43）に民進黨の市議員謝志忠（46）が挑む。ここは台中紅派の

地盤で、江啟臣はいまや紅派の少数ないポストを担う。紅派は全力で守りを固める。江は学者出身なのでクールな印象があるが、こまめに選挙区を回っている。当選 1 回だが知名度は浸透している。地盤の利、現職の利がある。一方、民進党の謝志忠は県議・市議 3 期目、2014 年市議員選挙は 2 位当選（ただし市議の選挙区と重なるのは豊原のみ）。地方議員のたくましさがある。新潮流派。この選挙区もすでに緑陣営優勢区に転じている。あとは江啟臣がどこまで分裂投票を引き起こせるかにかかっているが、蔡英文と朱立倫の票差は大きく開くので同日選効果で謝志忠が抜け出すであろう。



立法委員選挙 台中市選挙区図（旧台中市）



台中市第 4 区



国民党の現職蔡錦隆（57）に民進党の市議員張廖萬堅（50）が挑む。前回 2012 年と同じ顔合わせ。しかし、両者を取り巻く状況は大きく変わった。馬政権の不人気、盟友胡志強の落選、市内の建設・不動産などの支持基盤を固められないなどで蔡錦隆の 4 回目の当選は厳しさを増している。張廖萬堅は市議当選 5 回、新潮流派、選挙区サービスもこまめで知名度も高い。張廖萬堅が大きくリード。

台中市第 5 区

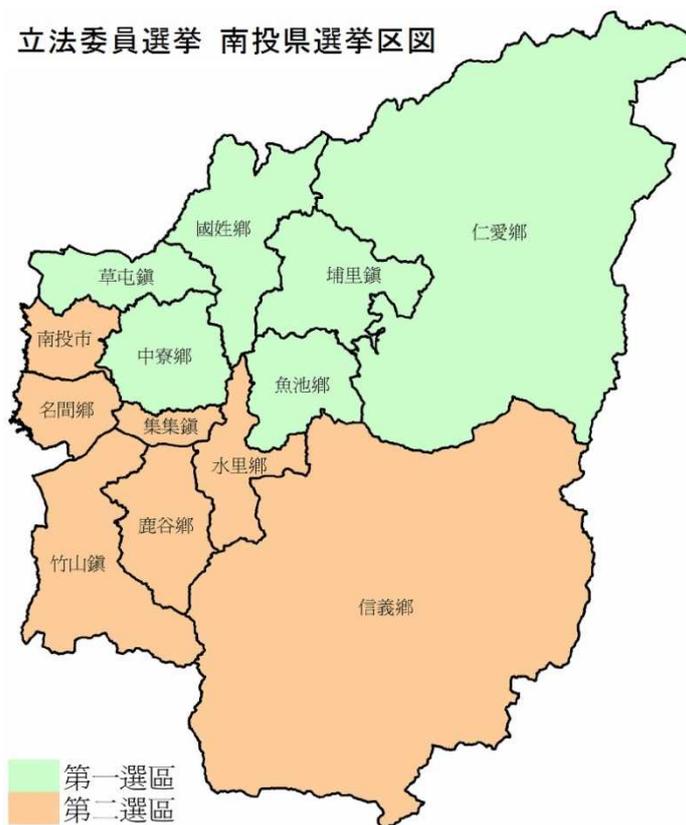
国民党は現職の盧秀燕（54）が出馬，6 回目の当選を目指す。泛藍優勢区なので民進黨は候補擁立を見送り台聯の劉國隆（56）を支持。ここでも変化の波は押し寄せ，蔡英文の得票率は 50%に到達する見込みであるが，盧秀燕は支持基盤が固いので分裂投票で乗り切れる。盧秀燕安定。

台中市第 6 区

民進黨の現職黃國書（51）に国民党の元職沈智慧（58）が挑む。前回 2012 年選挙で，民進黨の林佳龍が国民党の黃義交をやぶった選挙区。林佳龍が市長選挙に出馬したので補欠選挙が行なわれ，黃國書が当選した。黃國書は市議員 5 期目，新潮流派。沈智慧は 1990 年の立法委員増員選挙で当選し連続 6 期務めた大ベテラン。2008 年選挙で落選以降ブランクがあり古い印象を与える。黃國書安定。



立法委員選挙 南投県選挙区図



南投県第 1 区

国民党の現職馬文君（50）に民進黨の張國鑫（54）が挑む。前回 2012 年と同じ顔合わせ。馬文君はこまめな選挙区サービスの実績を掲げて 3 回目の当選を目指す。張國鑫は米シリコンバレーで長年働いた。前回は選挙区でなじみが薄く大敗したが，4 年間地道な選挙区活動を続けてきた。国民党への逆風と個人的知名度の上昇で両者の票差は接近する。

南投県でも蔡英文の得票が伸びる。南投県には 13 の郷鎮市があり、2014 年の選挙での分類は国民党系 7 (南投市、埔里鎮、鹿谷郷、中寮郷、國姓郷、信義郷、仁愛郷)、民進党系 4 (草屯鎮、竹山鎮、水里郷、魚池郷)、樹党 1 (集集镇)、中立 1 (名間郷)。今回、中寮郷と國姓郷の 2 郷長が国民党を離党し蔡英文支持を表明、樹党の集集镇長を加え全 13 名の郷鎮市長のうち 7 名が蔡支持、4 名が国民党候補支持、態度を明らかにしていないのが 2 名 (名間郷長と仁愛郷長)。郷長の蔡英文支持表明の背後には選挙での個人的怨念があり、支持表明したから票が動くというものでもないが、地元の雰囲気がある程度表す動きだ。

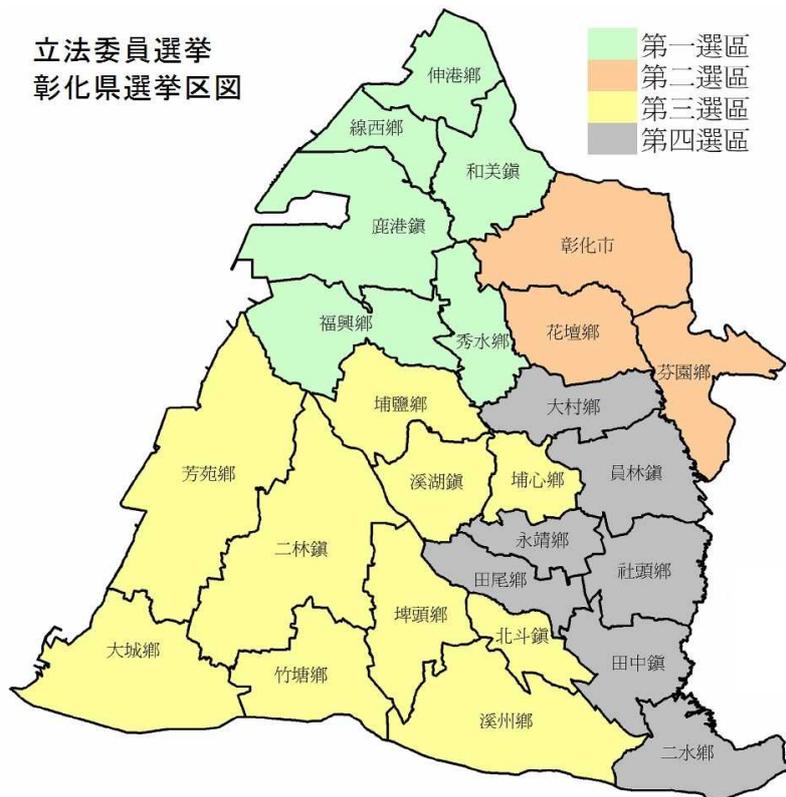


筆者の計算では県全体で蔡英文の得票率は 51%と見込まれるが、1 区は 2 区に比べて低く 49%止まりと予想している。つまり、同日選効果をもってしても届かないことになる。固い後援会票を持つ馬文君が逃げ切りそうだが、無風区の予想に反して接戦となる。

### 南投県第 2 区

国民党の現職許淑華 (40) に民進党の蔡煌瑯 (55) が挑む。前回 2012 年選挙で当選した国民党の林明溱が県長に就任し、南投市長を 2 期務めた許淑華がその補欠選挙で当選した。蔡煌瑯は立法委員を 6 期務めた大ベテラン、比例区 2 期を満了し選挙区への転身を図る。ただし蔡煌瑯の本来の拠点は第 1 区の埔里鎮である。許淑華は各種業界のネットワークを持ち集票能力は高いが、国民党への逆風が吹く。泛藍優勢区とされる南投県であるが、この選挙区で蔡英文の得票率は 53%を越える見込みだ。南投県にはものすごい数の中国人観光客が訪れるがその恩恵は少数の特定業者に偏る。馬政権の対中政策の評価にもかかわる。両者とも当選の可能性のある激戦だが、同日選効果で蔡煌瑯が抜け出しそうだ。





彰化県第 1 区

彰化県は過去 4 年間に民進党の支持が増加する「緑化」が進行した。彰化は台中との一体感が強く泛藍系の地方派閥が各郷鎮で長らく勢力を誇ってきた。しかし、県南からじわじわと民進党支持が増えていったという。それは、県南が雲林県と接していて、雲林・嘉義・台南などと人の往来が多く、友だち、縁戚、商売など通じて民進党支持の雰囲気広がったからだそう。筆者の計算では蔡英文の得票率は県全体で 57%、前回より大きく票を伸ばす。ただし、選挙区ごとの事情は異なる。

第 1 区は国民党の現職王惠美 (47) に民進党の新人陳文彬 (46) が挑む。王惠美は王金平支持の本土派、票田の鹿港で鎮長をしていた時からの後援会組織を擁する。陳文彬は著名な映画監督だが選挙区での知名度・支持にどのように結びつけるかが課題。ものすごい勢いで選挙区を回っている。こまめな選挙区サービスの王惠美と一騎打ちのゆくえは予断を許さない。専門家はほとんど一致して王惠美の再選を予想している。しかし、同日選効果をおり込んだ筆者の机上の計算では陳文彬だ。



彰化県第 2 区

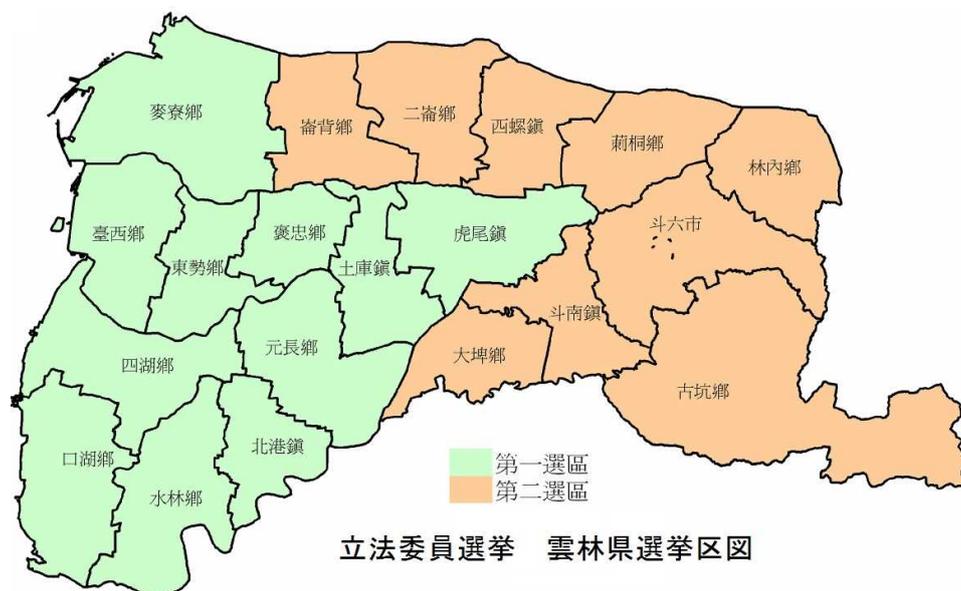
国民党の現職林滄敏 (58) に民進党の県議員黄秀芳 (44) が挑む。前回 2012 年と同じ顔合わせ。林滄敏は 2014 年県長選挙で大敗した影を引きずる。また、敗北の原因となった他派との摩擦も改善するには時間が短すぎる。黄秀芳は県議員 3 期目、同日選効果の力を得て前回のリベンジを果たす。

彰化県第 3 区

国民党の現職鄭汝芬（58）に民進黨の県議員洪宗熠（46）が挑む。鄭汝芬は地方政治家族の出身で、息子は県議会議長。本来堅い後援会組織を有していたが、2014 年の地方選挙ショックと総統選挙での洪秀柱の低迷で見通しが立たなくなり出馬を二転三転させた。最終的に朱立倫の登場で出馬に切り替えたのだがゴタゴタが尾を引いている。親国民党の陳朝容も出馬、大した得票率にはならないが、これも鄭汝芬のマイナスになる。洪宗熠は県議員 4 期目。同日選効果で洪宗熠が抜け出る。

彰化県第 4 区

民進黨の現職陳素月（49）に国民党の張錦昆（50）が挑む。前回 2012 年は民進黨の魏明谷が当選した。張錦昆は員林鎮長（員林が市に昇格したので現在は市長）。2014 年の員林鎮長選挙でこの二人が争いその時は張錦昆が当選した。しかし同年の県長選挙に魏明谷が出馬しほどなくして行なわれた補欠選挙では陳素月が前県長の卓伯源を大差で破って立法委員に当選した。4 年前の魏明谷の当選は僅差であったが 4 年間に「緑化」が進み、同日選効果もあるので陳素月圧勝の勢い。



雲林県第 1 区

2014 年地方選挙ショックで国民党に逆風が吹く。国民党の総統候補を決める予備選挙で王金平が出馬せず洪秀柱に決まったことは中南部の国民党本土派・地方派閥を失望させた。元県長張榮味の娘で国民党現職の張嘉郡（35）が不出馬を表明。張榮味は王金平を支持していた。国民党の総統候補が朱立倫に変わったことで張嘉郡の弟張鎔麒（28）が出馬することになった。民進黨は前県長の蘇治芬（62）を擁立。蘇治芬は 2 期 9 年県長を務め、2014 年には選挙区の虎尾で農業博覧会を成功させた。蘇治芬安定。



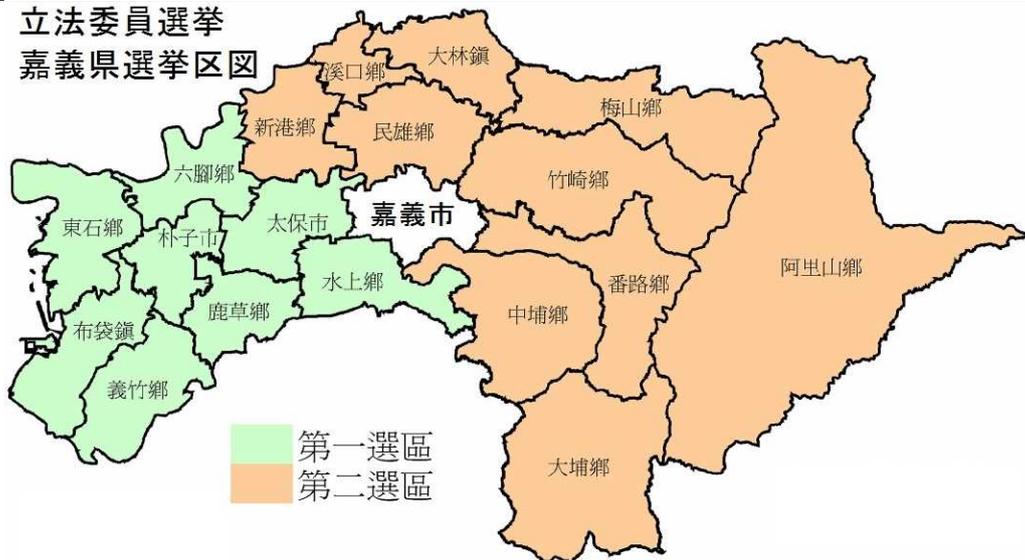
雲林県第 2 区

民進黨の現職劉建國（46）が圧倒的な強さを誇る。国民党はなかなか候補が決まらず、雲林科技大学法律研究所の教授で 2009 年に県長選挙に出馬し敗れた吳威志（50）を立てた。吳威志は、多勢に無

勢、討死が決まっているいくさにこれから出陣する戦国武将のような心意気を語ってくれた。劉建國は 2009 年 9 月の補欠選挙で初当選して以来、選挙区での支持基盤を大きく拡大させた。蔡英文が主席として初めて取り組んだ選挙がこの補選で、ここでの逆転勝利から民進党復活・躍進そして蔡英文の総統への歩みが始まった。蘇治芬が 2009 年県長選で獲得した 65%が劉建國の目標。劉建國安定。



立法委員選挙  
嘉義県選挙区図



嘉義県第 1 区

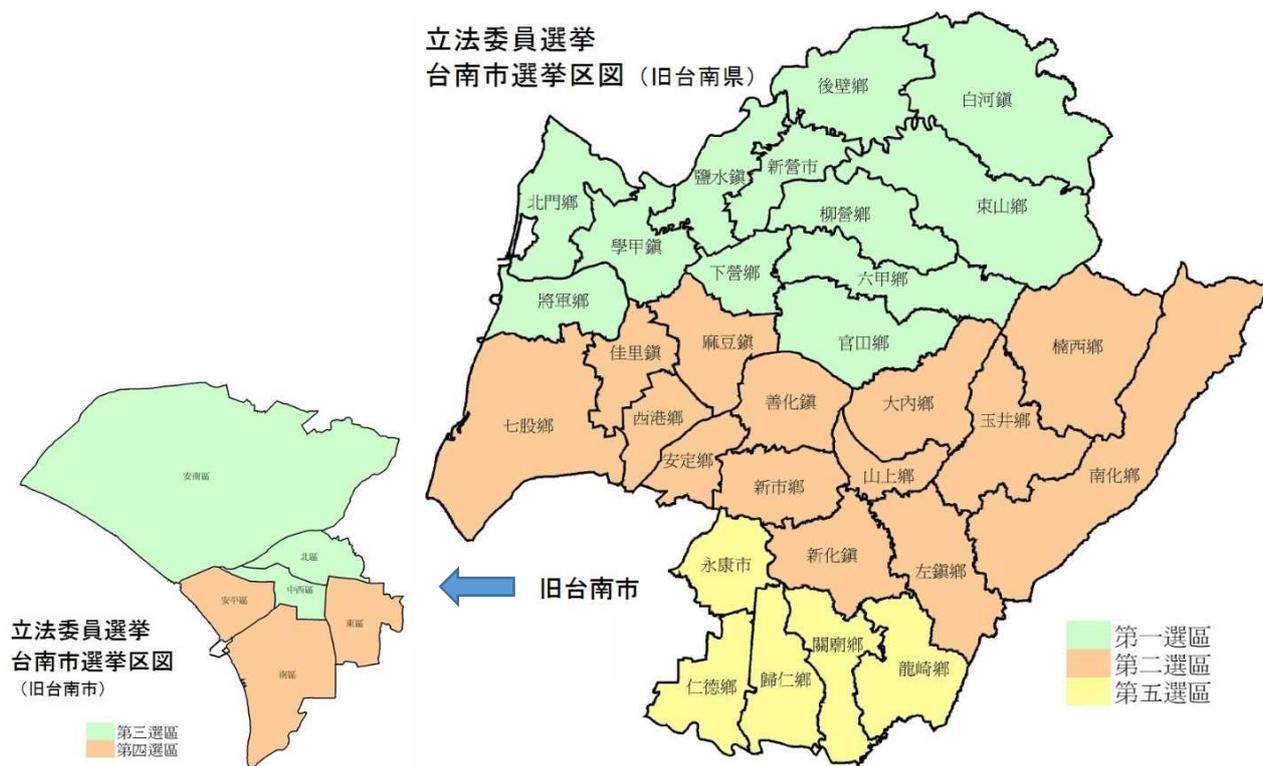
当選 7 回の国民党現職翁重鈞 (60) が不出馬。国民党の候補選びは難航し、元東石郷長林純金の息子の林江釧 (41) を立てた。民進党は前回 2012 年に翁重鈞にあと一歩のところまで迫った蔡易餘 (34) を再び擁立した。翁重鈞が出馬をやめたのは 2014 年地方選挙ショックで勝ち目がなくなったためと見られる。泛藍優勢区であったが泛緑優勢区に転換した。蔡易餘安定。

嘉義県第 2 区

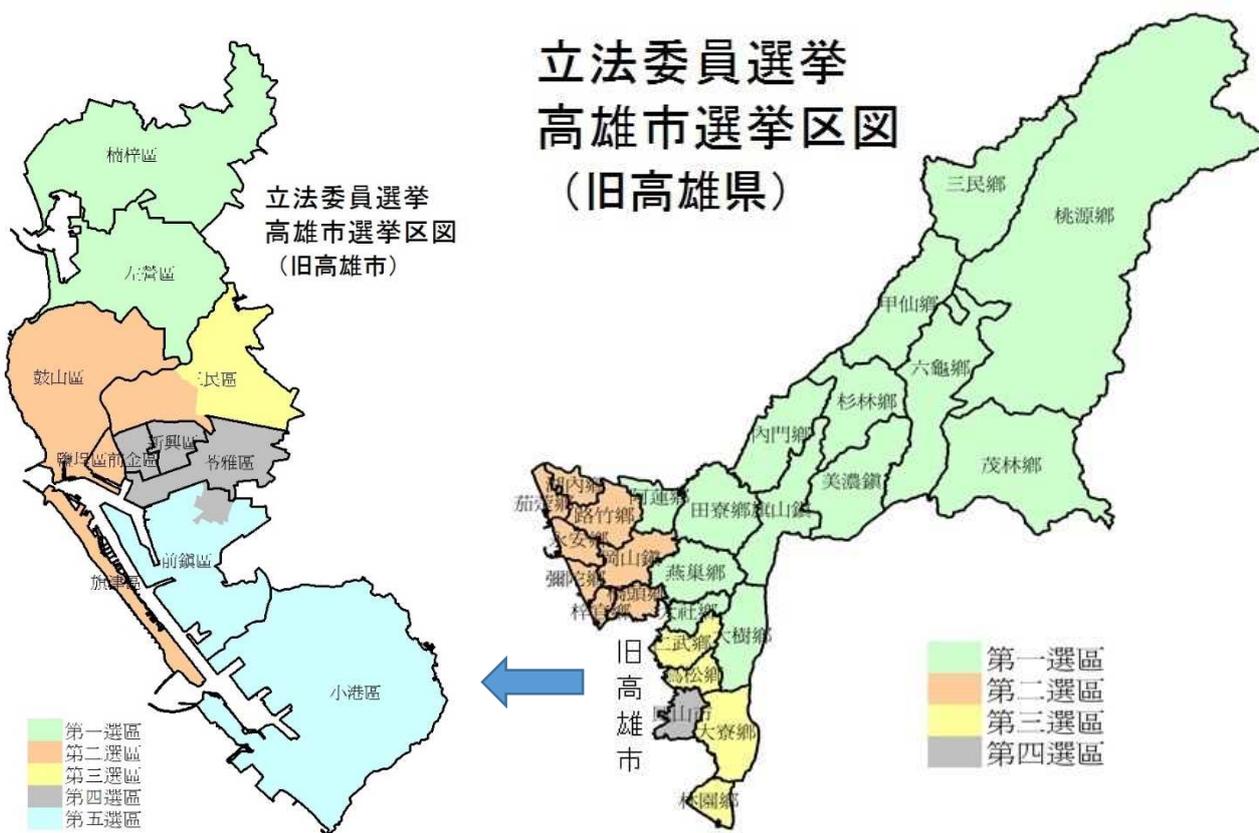
民進党の現職陳明文 (60) が圧倒的な強さを誇る。国民党はなかなか候補が決まらず県議員 3 期の林于玲 (52) を立てた。泛緑優勢区なので陳明文安定。

嘉義市選挙区

民進党の現職李俊俛 (50) に国民党の比例区の現職吳育仁 (46) が挑む。前回 2012 年、李俊俛は僅差で江義雄を破って初当選したが、今回は大差で再選されるであろう。嘉義市は歴史的に藍緑が攻防を繰り返してきたが泛緑優勢区となった。李俊俛安定。



台南市第 1 区
<p>民進黨の現職葉宜津（55）が圧倒的な強さを誇る。葉宜津は当選 5 回，元陳水扁派。党内予備選挙で市議員 2 人の挑戦を受けたが民調で大差をつけ公認獲得。国民党は候補探しに苦勞し，国民党台南市党部の北区党部書記（党職員）の黃瑞坤を立てた。葉宜津安定。</p>
台南市第 2 区
<p>民進黨の現職黃偉哲（52）が圧倒的な強さを誇る。黃偉哲は当選 3 回，党内では無派閥。党内予備選挙で賴清徳に近い市議員林宜瑾の挑戦を受けたが民調で大差をつけ公認獲得。国民党は候補探しに苦勞し，国民党台南市党部の新化区党部書記（党職員）の黃耀盛を立てた。黃偉哲安定。</p>
台南市第 3 区
<p>民進黨の現職陳亭妃（41）が圧倒的な強さを誇る。国民党は候補探しに苦勞し，市議員の謝龍介（54）を立てた。陳亭妃は前市長許添財派で一辺一國メンバー。陳亭妃安定。</p>
台南市第 4 区
<p>民進黨の現職許添財（64）が不出馬を表明。党内予備選挙で賴清徳派の前市議員林俊憲（50）と許添財派の市議員蔡旺詮とが争い林俊憲が公認獲得。国民党は候補探しに苦勞し，比例区現職の陳淑慧（58）を立てた。林俊憲安定。</p>
台南市第 5 区
<p>民進黨の現職陳唐山（80）が不出馬を表明。党内予備選挙は前市議員で一辺一國メンバーの王定宇と新潮流派で賴清徳に近い市議員郭國文が争い王定宇が公認獲得。国民党は候補探しに苦勞し，元市議員の林易煌（51）を立てた。林易煌は市内の開元寺慈愛醫院の副院長を務める医師。王定宇安定。</p>



高雄市第 1 区
民進党の現職邱議瑩（44）に国民党の鍾易仲が挑む。国民党は前立法委員鍾紹和の息子鍾易仲を立てた。邱議瑩は蘇貞昌派。邱議瑩安定。
高雄市第 2 区
民進党の現職邱志偉（43）に国民党の黃韻涵が挑む。国民党は市議員で王金平派の陸淑美が出馬予定であったが取りやめた。結局、陸淑美の娘黃韻涵が出馬。邱志偉は新潮流派。邱志偉安定。
高雄市第 3 区
当選 7 回の国民党現職黃昭順（62）が不出馬。国民党は元職の張顯耀（52）を公認した。張顯耀は馬英九政権で大陸委員会副主任委員（副大臣）を務めていたが 2014 年 8 月突然解任された。黃昭順が出馬をやめたのは 2014 年地方選挙ショックで勝ち目がなくなったためと見られている。黃はその後国民党の比例区名簿の安全圏に入った。民進党は、副市長の劉世芳（56）が予備選挙で市議員林瑩蓉を破り公認獲得。劉世芳は新潮流派。立法委員、行政院秘書長などを歴任、陳菊市長が強く推した。この選挙区は多くの人が泛藍優勢区と思っているが、すでに泛緑優勢区に転換した。劉世芳安定。
高雄市第 4 区
民進党の現職林岱樺（43）が圧倒的な強さを誇る。林岱樺は当選 4 回（2008 年に落選したがその後補欠選挙で当選）、新潮流派。国民党は候補探しに苦労し、元市議員郭國志の息子の郭倫豪を立てた。林岱樺安定。
高雄市第 5 区
民進党の現職管碧玲（59）に国民党の蔡金晏（37）が挑む。国民党は候補探しに苦労し、前副議長蔡



<p>屏東県第 1 区</p> <p>民進党の現職蘇震清（50）が圧倒的強さを誇る。蘇震清は当選 2 回，蘇貞昌派。国民党は候補探しに苦勞し，元職の廖婉汝（55）を立てた。廖婉汝は立法委員当選 4 回（4 回目は 2008 年比例区），2015 年屏東県第 3 区の補欠選挙に出馬し民進党の莊瑞雄に大差で敗れた。蘇震清安定。</p>
<p>屏東県第 2 区</p> <p>国民党の現職王進士（67）に，民進党の鐘佳濱（50）が挑む。王進士は屏東市長を経て立法委員当選 2 回。鐘佳濱は学生運動の出身，新潮流派，屏東県副県長を 8 年務めた。ここは南部でわずかに残った泛藍優勢区であったが，すでに緑化の途上にある。筆者の計算では蔡英文の得票率は 60%に到達する。王進士が分裂投票で当選すると見ている人が多いが，前回王進士が引き起こした分裂投票（馬英九の得票率との差）は 4.66 で，最も大きな分裂投票を引き起こした嘉義県の翁重鈞の半分以下である。この程度の力量では今回の同日選効果には抗しがたい。鐘佳濱が当選するであろう。</p>
<p>屏東県第 3 区</p> <p>民進党の現職莊瑞雄（52）が圧倒的強さを誇る。前回 2012 年選挙で当選した潘孟安が 2014 年県長に就任し，その補欠選挙で当選したのが謝長廷派の莊瑞雄。国民党は候補探しに苦勞し，地元ラジオ局の許謹如を立てた。許謹如は県議員を務めた許昌賢の娘。莊瑞雄安定。</p>

<p>宜蘭県選挙区</p> <p>民進党の現職陳歐珀（53）に国民党の李志鏞（49）が挑む。李志鏞は元県議員，2014 年選挙で落選した。陳歐珀安定。</p>
---

<p>花蓮県選挙区</p> <p>国民党の現職王廷升（50）に，民進党の蕭美琴（44）が挑む。花蓮県は国民党の鉄票区。前回 2012 年花蓮県の総統選挙得票率は馬英九 70.3%，蔡英文 25.9%という大きな差がついた。台湾本島で馬の得票率が最も高かったのが花蓮県である。花蓮では藍陣営が分裂しても民進党は漁夫の利を得られないほど藍緑の差は大きかった。王廷升は元県長王慶豊の息子。2008 年選挙で当選した傅崐萇が 2009 年県長選挙に出馬・当選したため行なわれた補欠選挙で民進党の蕭美琴を破って初当選，2012 年選挙で再選された。蕭美琴は 2012 年選挙で比例区立法委員に当選したが，その後も花蓮に通い続け選挙区活動を続けてきた。今回は比例区からの転身で 2 度目の挑戦となる。蔡英文に近い人物。花蓮県では原住民の人口が相対的に多いが，原住民は立法委員の選挙区では投票しない。原住民は国民党支持の比率が高く，総統選挙や県長選挙では鉄票としてカウ</p>	
---	--

トされるが、立法委員選挙では台湾全体の「平地原住民選挙区」と「山地原住民選挙区」のどちらかで投票する。したがって立法委員選挙は国民党の観点からいうと、総統選挙、県長選挙より支持基盤が少ない選挙となる。原住民選挙民が抜ける差は、国民党の計算では 5 ポイントだそうだ。朱立倫の得票率が 60%であれば、王廷升の得票率は 55%となる。蕭美琴が 50%に到達するためにはかなり大きな分裂投票を起こさなければならない。机上の計算では王廷升が有利だ。しかし、王廷升に対しては国民党支持者にも不満があることが指摘され、県内の地方派閥・政治家族間の足の引っ張り合いというマイナス要因もある。どちらが当選してもおかしくない激戦。

#### 台東県選挙区

民進党の現職劉權豪（58）に国民党の陳建閣（49）が挑む。劉權豪は党内で無派閥。陳建閣は元台東市長。2014 年県長選挙で劉權豪が出馬し敗れているが、原住民選挙民が選挙区では投票しない。接戦であるが劉權豪リード。

#### 澎湖県選挙区

民進党の現職楊曜（49）に国民党の陳雙全（54）が挑む。楊曜は党内で無派閥、蔡英文を支える「英派」。陳雙全は県議員当選 5 回、現在副議長。接戦であるが楊曜リード。

#### 金門県選挙区

泛藍勢力が圧倒的に強いが、各派の争いが激しく毎回激戦。国民党の現職楊應雄（58）が不出馬。国民党は県政府観光処長を務めた楊鎮活（43）を公認。新党から立法委員を 2 期務めた吳成典（58）が出馬。民進党は県議員 2 期目の陳滄江（60）を擁立。三つ巴の争いで国民党と新党の票が真二つに割れる可能性があり、民進党にごくわずかであるがチャンスが生まれている。しかし、蔡英文の前回の得票率はわずか 8.2%、立法委員は候補も立てなかった選挙区であり、陳滄江が漁夫の利を得るのは奇跡に近い。これまでの「常識」では楊鎮活か吳成典かのどちらかの当選だが、「金門でも変化の風が吹いている」と指摘する専門家もいるし、陳滄江の民調が伸びているという報道もあるので要注意。

#### 連江県選挙区

国民党の現職陳雪生（64）が安定。

**【注】**「選挙区情勢」の評価の方法は次の通りである。①過去の選挙結果を整理し、今回の総統選挙の情勢と合わせたマクロ的な選挙情勢を数値化する。②選挙区における民進党候補と国民党候補の得票率の変動の基準となる数値を割り出す（国民党 5 ポイント減、民進党 5 ポイントプラスが基準）。③新聞報道および関係者の話を総合して各候補の強さ・弱さを比較検討する。④さらに「同日選効果」および「分裂投票」の可能性とその幅を検討。以上を総合し全選挙区データを excel で処理。

**【謝辞】**過去 4 年間に多くの立法委員、候補者、そして関係者から話を聞く機会を得た。1 票の得にもならない外国人研究者の面会のために時間を割いてくれた方々に大変感謝している。